

古着の山を宝の山に

「ファッションロス」対策

新品やまだ着ることのできる衣服が廃棄される「ファッションロス（衣服ロス）」が新たな環境問題になっている。大量の温室効果ガスの排出につながっているとされ、様々な分野で、廃棄を減らすための取り組みが広がる。

輸出や染め直し 廃棄防ぐ

■輸出して販売、ワクチンに

2月上旬、千葉県内の倉庫には、茶色い回収袋が約1500個も山積みになっていた。袋の中身は約7万5000着分の古着などで、重さは約30ト。カンボジアなどに輸出され、現地で販売される。

これは日本リユースシステム（東京）などが手がける「古着deワクチン」で集められたものだ。このサービスは、1回の古着回収当たり5人分のポリオワクチンがNPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」（東京）を通じてア

ジアの途上国に送られる。利用者は、専用の回収キット代や送料として3300円を負担する必要があるものの、「ただ捨てるのではなく愛着のある服を再利用してもらえ、古着の販売代金でワクチンを通じた社会貢献ができる」と考え利用する人が多い」と話す。

■再利用ブランド

アパレルメーカーも再利用に力を入れる。アパレル大手のアダストリア（東京）は昨年6月から、販売が終了した新品や古着を黒く染めて再利用したブランドを展開する。黒染めで汚れなどを消せる上、色の出

方の違いで個性も生まれる。廃棄される衣服に新たな価値をつけることで無駄を減らすことを狙う。

■ジェット燃料

アパレル以外の分野にも取り組みは広がりをみせている。日本航空は、全国から回収した25万着の古着などの綿からバイオジェット燃料を製造。2月4日には通常の燃料と混ぜた上で、国内線の定期便に初めて搭載してフライトを実施した。

家庭でもできる「ロス」対策4つ

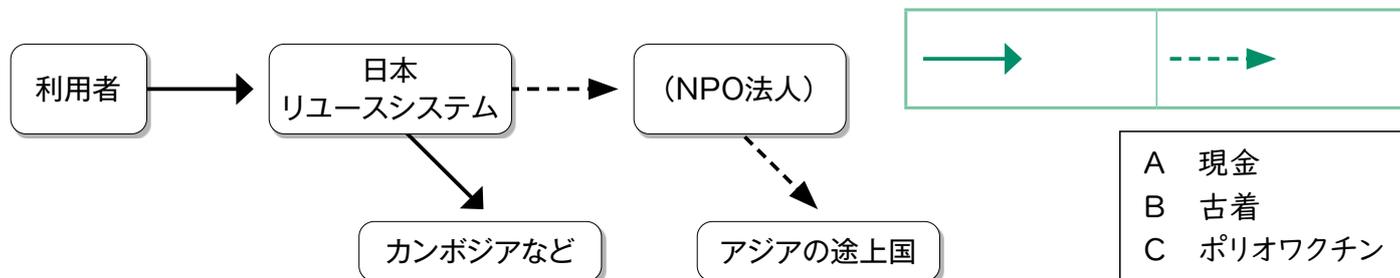
環境省によると、ファッションロスの対策には①服を厳選する「リデュース」②修繕などして長期間使用する「リペア」③古着などとしてもう一度使う「リユース」④資源物として回収する「リサイクル」——が効果的という。

(2021年3月6日 読売新聞夕刊より)

1 ファッションロスはどのような環境問題を引き起こすとされていますか。12文字でぬきだしましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 「古着deワクチン」の仕組みを図に表しました。→と-----→はそれぞれ何の流れを指していますか。□の中から選びましょう。



3 記事で紹介されている取り組みは、それぞれ環境省が説明するファッションロス対策のどれに当たのでしょうか。リデュースならば「1」、リペアは「2」、リユースは「3」、リサイクルは「4」を書きましょう。

- () 「古着deワクチン」の取り組み
- () アダストリアが販売の終了した商品を黒く染めて販売する
- () 日本航空が古着からジェット燃料をつくる